

「Let's 健康おきなわ21」



「子どもたちの健やかな心と体の成長のために」

石垣市立登野城小学校養護教諭 友利 良子

八重山では、思春期の早い時期に親元を離れ自立を迎える子が多くいます。私は、どの子も幸せに生きていけるようにと願い養護教諭として担任・保護者と、さまざまなたくさんのつながりを大切にする取り組みをしてきました。

「生まれたばかりの赤ちゃんの脳は何グラムあるか分かりますか？」脳モデルの登場で本校の4年生体育科(保健)の授業が始まります。この単元で私たちは、思春期に向かう子どもたちが、安心感を持って自分の心と体の変化を肯定的に捉えられるよう教材を工夫し、時には身近なこととして考えてもらえるよう自分自身の体験を伝えることもあります。

今年度も担任の由和子先生とのT・T授業を行いました。誕生からこれまでの成長と、これからの心と体の変化についての話に一人一人のまなざしは真剣で、たくさんの不思議に質問も多く出ます。そして、授業の最後は「体をよりよく発育・発達させるための生活」について学びます。食事・運動・睡眠が心や体に与える影響や、生活習慣病等にも触れることで子どもたちは自分の生活を振り返ります。また、自分の目標を立てたり家族と話したりしたことを、ワークシートや日記等につづっていきます。これが将来の健康生活につながるよう、私たち養護教諭は学級担任との話し合いを重ねながらの授業づくりを続けてきました。やわらかい頭と素直な心でたくさんのことを吸収してくれる笑顔のステキな子どもたちです。

思春期は誰にでも訪れ、親も子どもとの関わり方に戸惑い大変さを感じる時期があります。家では母親として、わが子と懸命に向き合ってきたつもりではあ

りますが、思春期真っ盛りの多感な頃にはイライラする息子と言葉でぶつかりあったり、伝えることの難しさに悩んだりすることもありました。しかし、息子がつづったエッセーを目にした時には、親の思いが通じていたこと、親子で共に成長できたことをかみしめ涙しました。

「自分が生まれてきたこと」「たくさんのいろいろな感情」をひとつひとつ整理していくことがあって子どもは成長できます。私たち周りの大人が、きちんと子どもの声に耳を傾け、向き合っていくという役目を果たすことが「子どもたちの健やかな心と体の成長」につながると信じこれからも子どもたちを見守っていきたいと思います。

T・T(ティーム・ティーチング)授業とは

授業場面において、2人以上の教職員が連携・協力を通して一人一人の子どもおよび集団の指導の展開を図り、責任を持つ指導方法および形態である。

「わが家の奇跡」

「奇は奇跡」とは何ぞや。自分と同じ人間はいないから、存在しているだけで奇跡かもしれないと思ふ。

わが家には、二度の奇跡が起きた。

一つ目の奇跡は兄。お腹の中にいる時から胎動が弱く、お産の時に陣痛もあまりなかった。お産の時に陣痛もあまりなかった。お産の時に陣痛もあまりなかった。

クリスマスの日、お腹の中の僕の存在がわかり、その奇跡がうれしくて涙が止まらなくなった。お産の日、お産の日、お産の日。

人間には、一人一人の個性があるという。僕にも何か個性があると思う。奇跡を信じ命を捧げてくれた家族と、自分のために僕は僕をしっかりと生きていきたいと思う。



「Let's 健康おきなわ21」は、八重山地区健康おきなわ21推進会議の構成機関・団体による『沖縄県の長寿復活に関する記事』を掲載しています。